

ベストクラス選定理由書

作成者：藤崎理子、松岡大河、柴折采希、福田裕子、前芝武史、竹口智之、藤木裕一

科目名称：教職員職能開発と研修プログラムの開発（夜間クラス） (担当教員名：浅野 良一、當山 清実、黒岩 寛)	
課程：大学院（専門職）	開講時期：後期
授業形態：講義・演習	授業規模：30人以下
インタビュー対象教員名：浅野 良一 (実施日時：令和4年8月8日(月)；実施場所：Zoomにより開催)	
インタビュー対象受講者名：池上 誠朗、塩 晃、福永 昌史 (実施日時：令和4年8月8日(月)；実施場所：Zoomにより開催)	
選定理由 <p>本科目は、教職員の資質向上に根差した教員の人材育成を視点とした授業である。キャリア開発や組織マネジメント、人事管理や研修制度等の人材育成に関わるキーワードを基幹としながら、将来管理職になり得る受講生に対して教職員の職能開発としての視座を求め、学修を進める科目である。本科目の受講生は現職教員のみで構成され、それぞれ異なる経歴や立場を有している。そのような様々な背景のある受講生が参集した科目であるにも関わらず、授業アンケートで記述された回答は全て高評価コメントであった。受講生コメントには「中身の詰まったテキストが配布」され、授業時間外であっても自分で学んだり振り返ったりしながら学修を進めている様子が記述されている。また、担当教員が作成・提示した資料に対し、受講生自身が学びの全体像を俯瞰して、「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」について自覚した上で授業に参画している様子が見られた。さらに、「担当された先生が1人1人の学生の背景について理解された上で、グループを組んだりテーマを提示されたりして、学んでいる学生に寄り添った授業」との回答があり、教員と受講生との対話、受講生同士の対話を促進することで、各受講生が主体的に学ぶことができた点が高評価につながっている。このような学びの好循環が成立した要因について、インタビューした教員並びに受講生の語りから、以下の2点が特筆すべき特長として挙げられる。</p> <p>1. 【授業者－受講生】の関係からの脱却</p> <p>インタビューで、教員は「現場のことは学生がよく知っている」という思いから、教員として知識を教えるだけの立場から脱却し、「学生をリスペクトする、一目置く」という授業に対する姿勢を語られた。一方、受講生へのインタビューでも「浅野先生が受講生を尊敬してくれている」という実感があり、教員も受講生も「互いに学ぶ姿勢をもって」授業に参画していることが語られていた。それは、受講生が話した内容を教員が興味を持って聞いてくれ、その内容をもとに授業以外にも気軽にコミュニケーションを取ってくれる教員に対し、受講生が個として尊重されることを通して「浅野先生の人柄」や「常に探究・追究の姿勢」を感じさせる教員に対する尊敬の念が窺えた。</p> <p>2. 受講生に対するキャリア開発の視点</p> <p>本科目は、教職員のキャリア開発について学修するが、本科目の授業内容や資料そのものが、将来管理職となり得る受講生のキャリア開発を促している点が特筆できる。教員のインタビューで、受講生が将来「良い管理職（リーダー）になってほしい気持ち」で授業が設計されていることが語られている。そのため、教員自作のテキストやDVDは「対面でもオンラインでもどこを学んでいるのかが分かりやすいように」配慮され、1冊のテキストにすることで受講生が学びを俯瞰し、振り返りを促すものとなった。また、充実した資料やテキストは受講生自身がOJT(On-the-Job Training)等で学校内の講師になった際に参考資料として活用できるようにという願いが語られた。この充実した教材や授業内容については、受講生インタビューでも「管理職としてこういうことも知っておかなければいけないという意識を高めてくれた」と語られ、資料を活用した「演習を通して、学校で行っていることはこの部分である、またはこの部分が足りてないというのを自然に分からせてもらえる」と、将来受講生自身が管理職になるというイメージを持ちながら、学校現場に即した課題探究を促進したものであったと推察された。</p> <p>以上の授業アンケート、教員並びに受講生インタビューから、本科目をベストクラスに推薦する。</p>	